

ふるさと奥尻通信

平成24年2月1日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭語

まあまああ、ホントによく降る雪なこと。こうなれば雪祭りでも開催したらお客さんも来そうですね。とりあえず、かまくら造りから始めてみようかな。バケツのアイスクャンドルもいいなあ。

特集 球浦開拓 球浦小学校と米軍飛行場があったころ

奥尻市街から島の西海岸である幌内(湯浜地区)へ向かうには中央線を登るのが早道ですが、自衛隊基地へ向かう急な坂路でもあります。中央線と球島山から来る球浦鉱山線との分岐点周辺が球浦開拓と呼ばれた地域の中心地で、現在の最終処分場となっているあたりに、かつて球浦小学校と米軍の飛行場があったことは、今では想像もつかないでしょう。ここでは、昭和29年(1954)に開拓地として解放されて入植が始まり、同31年には35世帯が入りました。学校は、子供らが5km以上離れた奥尻小学校まで砂利道を徒歩で通うという不便さを解消するために同32年末に創立、翌年6月に開校しました。6学年の複式学級に教諭1名という超小規模校でしたが、開拓総出の演芸会や米兵との運動会など、地区の中心として活躍したのです。しかし、生産性の悪さから離農者が相次ぎ、児童の減少から昭和47年3月で閉校し、奥尻小学校と統合しました。同31年に造成された米軍の飛行場は、全長500m・幅60mの規模で、ブルドーザーで整地しただけの粗末な造りでした。単発機が毎週金曜日に米兵の給料を青森県の三沢から届けに来ていたようです。



旧球浦小学校と飛行場跡 昭和51年(1976)
国土地理院 国土変遷アーカイブより



廃校直前の球浦小学校校舎 昭和47年(1972)

寺田功初代校長の自分史『球浦小学校草創記』から最後のくだりを拾ってみます。「(前略)港は大変な人だった。いつの間に降りて来たのか、開拓地の人達の顔も何人か見えていて、時間とともにその数は増えていった。みんな手に手に紙テープを持っているようだ。あまりにも大袈裟な見送りに、ちょっと面食らってしまう。(中略)先生は、わざわざアコーディオンを持って来ていた。早速、『球浦開拓青年団の歌』が歌われ、続いて『螢の光』の大合唱になった。(中略)何回か歌が繰り返されるうちに第弐三島丸は汽笛を鳴らし、ゆっくりと岸壁を離れた。『螢の光』のメロディーは、殊の外強烈に過ぎ去った三年間を思い出させる。三島丸よ、一刻も早く港を出てくれ！しかし、動き始めたばかりの船は急にはスピードは上げれない。時間の流れがそのスピードを緩めてしまったように、いや別れの辛さを思いしらせるようにゆっくりとしか船は動かない。見送ってくれる一人一人の顔が、いつまで経っても小さくならないような気がする。(中略)奥尻の港町が小さくなっていく。島の象徴『鋼釣岩』は、今はもう小さな箱庭の中の小道具の一つのようには見えなくなってしまった。島よ、さようなら！球浦よ、さようなら！」昭和36年(1961)4月5日。

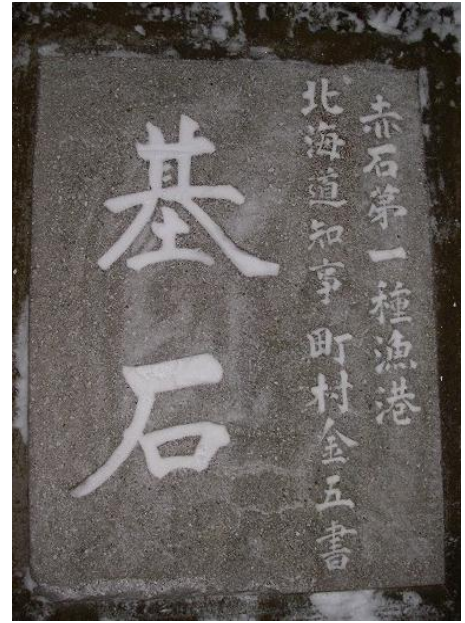


現在の小学校跡と飛行場跡 最終処分場



出航する第弐三島丸 昭和30年代

奥尻地区から青苗地区へ向かって南下すると、間もなく赤石の集落と赤石漁港があります。赤石漁港は、昭和44年頃より整備に着手しましたが、その時に埋められたのがこの基石です。同港は平成5年～平成11年にかけて断続的に改修工事が行われ、近年では平成16年に防波堤突端の工事が行われています。揮毫者の町村金五は、明治33年(1900)に町村金弥(札幌農学校2期生)の5男として札幌で生まれ、東京帝国大学を卒業し、新潟県知事、富山県知事、警視總監を歴任しました。終戦後に公職追放を受けましたが、代議士となって復帰し、昭和34年(1959)には第3代北海道知事となり、同46年までの3期を務めました。奥尻島へは、就任直後の同34年6月25日に海路で青苗港から上陸し、村民の歓迎を受けました(右下写真)。赤石港内では奥尻高校のスキューバ授業が行われることもあり、この授業は平成7年(1995)から始まった取り組みで、道内公立高校では唯一のもので(左下写真)。



奥尻高校のスキューバ授業 奥高HPより





町村知事初来島 青苗港 昭和34年6月25日

左面	正面	右面・裏面	規模
(刻字なし)	北海道 赤石第一種漁港 町村金五書	(刻字なし)	長さ 調査中 幅 調査中 奥行き 埋め込み 石材 花崗岩

こぼればなし

昨年12月のある日、港内に入ってきたカジカをねらって赤石漁港で釣りをしました。しかし、夕方から雪になり寒くて寒くて。しかも釣れなくて小さいカレイ一枚だけ。この日は、イカが大漁で沖からイカを満載した船が次々入港し、降りしてはすぐに漁場へ向かっていました。釣果は良くなかったけれど、イカ漁に励む赤石の皆さんの熱気を感じました。こちらはのほほんとしていただけに一層そう思いました。

絡教募色くるキ水口う加開
く育集タシとは量。進が催奥
だ委中話りか千が昔行あし文
さ員でがブ、匹多はしりま研
い会すある奥くか雪よ、しの
。のり|尻らっがう嬉た第
稲でまーのいた多かし。2
垣、しだ海生とくと才1勉
まおたよは息かて才誤0勉
で氣。と、し、口算名強
ご軽会かーて夕川オにの会
連に員、おい又の ど参

OBK順調です♪



愛犬グリとタヌキ

受あいさ犬そかへに逃でと力行ケたN
けるたれ小うな夕固げ危、わはH先
止とのて屋でか又定出陰夕。れ昨さK月
めいは、がす特キカすを又聞、年わで、奥
まう、犬夕。定のメた察キく木1や特尻
す貴何が又昨でたらめ知はと村0か集
。重事助キ年きまを、す臆こ前月自
(なにけー、ずり置撮る病ろ学と然れ夕
竹事もを匹我苦場く影となに芸1百て又
例例求にが労場のす生よ員2景いキ
だ外め占家しが所たぐきる協月・まが
とはて扱のたなめに物に口し

赤石狸合戦ぼんぼこ

今号では奥文研会員の竹浪氏よりタヌキの話題を提供してもらいました。学校って、いつまでも残ってるものと思うから、母校が閉校したり、統合したりするととても寂しい気持ちになりますよね。球浦小初代校長離任の体験記を入力した時、目頭が熱くなることしばしばでした。寂しい別れの季節がもうすぐやって来るのですね(センチなした)

新卒之記録(編集後記)

お長図勾才港カス0も毎毎
く寿書玉ジ低ンキ6う日日
し番室の口水ボ1年疲毎毎
り付に次ワ温ジ授来れ日日
の東新はシでア業のた雪雪
春の刊夕飛魚船・大bか雪雪
は横ぞ又来釣迷教雪yき雪雪
遠綱くキ中れい室の全雪雪
し逝ぞ放注なこ開見島か雪
：くく送意いむ始込民き！

奥尻島短信



球浦小学校最後の卒業式 昭和47年